

町小だより

令和 7 年
10 月 28 日
No. 701
御免町小学校

子どもの頃の情操教育

校 長 土田 利康

先月、新潟市のりゅーとぴあで行われた、「宇宙戦艦ヤマト」のBGMなどを演奏するオーケストラのコンサートに行きました。観客の年齢層は高く、60歳代が多かったように思います。コンサートが始まり、ヤマトではおなじみの女性のスクヤットが流れてくると、幼い頃の風景がぱっと頭に浮かび、自然に涙があふれてきました。いともこと東京・上野の映画館で見たことや、小遣いでヤマトのプラモデルを買ったこと、ワープはいつかできるのかもしれないと真剣に考えていたことなど、その時の景色や思いがよみがえりました。周りを見るとハンカチを目に当てている人がたくさんいました。私と同じように昔を思い出していたのでしょうか。音楽は、タイムマシンのように、私たちを過去の記憶へと連れていってくれました。



「この曲を聴くと、あの頃を思い出す」というような、音楽と記憶との結び付きは、誰もが経験していることだと思います。幼い頃に聴いたアニメの主題歌や小学校の「今月の歌」、中学校のコンクールの合唱曲、家族旅行の車中で聞いた歌謡曲。こうした音楽は、そのときの情景や感情とセットで、子どもの心に刻まれていきます。そして大人になったある時に、ふと耳にした音楽をきっかけに、当時の思い出や温かな感情がよみがえってきて、心をリセットさせます。

こうした感情と結び付いた記憶を育むために大切なのが、子どもの頃の情操教育です。情操教育とは、子どもの感性や情緒を豊かに育てるための教育で、音楽、美術、自然との触れ合い、読書などがその中心になります。情操教育は、言葉を超えて感情に直接働き掛ける力をもっており、子どもたちの心を育てる上でとても重要な役割を果たしています。

校歌を歌う全校朝会、図画工作での創作活動、地域の素材に触れる生活科や総合学習の授業。日々の学校生活の中にあるその一つ一つが、子どもの心に「思い出の種」となって残っています。大人になったとき、歌を聴いたり類似の景色を見たりして、人のぬくもりや友達との楽しい時間を思い出し、心がほんわり温かくなったり、「また明日から頑張ろう」と気持ちを新たにしたりできるのは、小さい頃に情緒豊かな体験があるからだと思います。

私たち大人はつい、「学力」や「成果」に目を向けがちです。しかし、人生を支えてくれるのは、それだけではありません。心が疲れたとき、前を向けないときなどに、そっと背中を押してくれるのは、過去の楽しい記憶や心に残った音楽、何気ない会話なのかもしれません。

先日、「町小ウォークラリー」を行い、御免町小学校区内を全校で歩き回りました。初めて知る場所、親しく話し掛けてくれるお店の人、チェックポイントで待っていてくれた地域の方々、そして終日引率してくれた保護者。このような出合いや体験が、将来の「心の支え」になるかもしれません。そう思うと、幼少期の情操教育の大切さを、改めて感じずにはられません。